

教宣活動を通じて組織の活性化を 「紙の弾丸」であるニュースを発行しよう!



国労せんだい

N0. 2529
2008年9月5日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

機関紙特集号

地方本部内ではこの数年、教宣活動が活性化し、機関紙を発行する機関が増加の傾向にあります。先駆けている機関に学びながら、教宣・機関紙活動を通じて組織の強化・拡大を図りましょう。

複数勤務が一番 きれいなシーツ

数ヶ月ぶりの夜勤、現場まで業務用自動車により移動のため、休養室で仮眠を取ることにした。一年前の仮眠室は、汚れたままの「マクラカバー・シーツ・布団カバー」で十分も横になっていれば体が痒くなるため、ブースの椅子を並べて仮眠を取る状況だった。しかし、組合の要求で改善され、今は洗濯された「マクラカバー・シーツ・布団カバー」が常備されて、自分で交換して気分良く仮眠を取ることができるよう。おかげで勤務開始の三十分前までゆつくりと横になった。熟睡は出来なかったが長



時間布団で横になったことは、業務用車を運転する体にはよかったです。この陰には、汚れて交換された「マクラカバー・シーツ・布団カバー」を洗濯に出す事務センターのみなさんの心遣いがある。あらためて感謝である。これからは、使う側の姿勢が問われる。お岩様が? 一度目の夜勤。前回は教訓に今度は裏街道で帰ることになった。車など全然こないので安心であるが、山中・川の隣で極めて不気味。「お岩様」が後部座席に乗っていないかとバックミラーを時々見る。国道のトラック野郎も怖い真つ暗な道を一人で走るのも怖い。恐怖の連続である。五時近くになると明るくなってきた。「お岩様」の恐怖がなくなった。ホットすると睡魔が襲う。窓を開け、眠くないと言いつつも工事区に到着。夜勤は怖い。運営会議の報告で、交通事故防止で、夜勤の場合は①ゆつくりと仮眠をとり休

地方大会九月二七、二八日 組合員の声を大会に持ちよう!

む。②業務用車を運転して戻る場合はパーキング等で休養をとることの報告を受けたが、これは「自己責任論」である。監督員詰所を造って現地でゆつくり仮眠できる設備をつくること。一人勤務でなく二人勤務とすることが交通事故防止には絶対ではないのか。そのためにはゆとりある設備と要員が必要だ。電力技セ等では深夜帯に遠隔地に行つて作業をして帰ってくるという。我々と同様に交通事故が心配。夜勤に伴う業務用車運転は共通の問題。間違え命を失う。統一した要求と共同行動で改善しなければならぬ課題である。

東北工事事務所分会「ろばた」七二四号より

生活破壊する
遠距離通勤反対!

六年前の二〇〇二年五月一日、箭内喜八氏は郡山工場から仙台電車区に強制配転されました。それから二〇〇六年までの四年間、片道三時間にも及ぶ遠距離通勤を強いられたのです。

箭内氏は当時、PTA会長を務めていましたが、帰宅が二一時頃になるため、平日の活動が不可能になるなどの支障が出ました。また、病気を患い入院を繰り返していた七〇歳を超え

地本内四機関紙を推薦!

東日本本部大会における 優良機関紙等の表彰報告

国労東日本本部は各地本・支部・分会における機関紙の発行など、教宣活動に功績があった機関紙等の表彰を行っている。これは教宣活動の向上、ひいては組合活動の強化に資することを目的としており、本年度も各地方本部に選考を依頼している。仙台地本はその選考基準に基づき検討した結果、以下の四機関の機関紙が該当する事を確認し、東日本本部へ表彰報告を行った。

対象は今年度中（07年7月1日～08年6月30日）に次のいずれかに該当するものを表彰するとしている。

なお、表彰式は東日本本部大会において行われる予定となっている。

最優秀表彰

①通算500号に達した機関紙。
②今年度中に50号を発行した機関紙。
③特別な雑誌の発行、長年にわたる学習会の継続など。



- 優秀表彰**
- ①今年度中に30号を発行した機関紙。
 - ②サークル活動を通じ団結強化に功績のあった取り組み。
- 地本内該当機関紙は以下の通り。
- | ★ 名称 | 発行機関 | 表彰理由 |
|-------|-----------|----------|
| ろばた | 東北工事事務所分会 | 年度内53号発行 |
| 郡工情報 | 郡山工場支部 | 年度内52号発行 |
| ガンバ組立 | 仙総所支部組立分会 | 年度内40号発行 |
| 団結 | 仙台総合車両所支部 | 年度内33号発行 |

たからです。二〇〇六年、異動先の渋谷駅でホーム案内係となりましたが、その労働環境は予想を超えるすさまじいものでした。毎日のように乗客から苦情を言われ、怒鳴られ、身の危険を感じることもしばしばでした。「自分の人格が崩壊してしまいたい」になりながら、二年頑張れば郡山に戻れる、それだけを抛り所に、耐えて耐えて耐え抜きました。しかし、彼の頑張りに対する会社の答えは、七月四日付「仙台車両センター車両係を命ずる」でした。労働者は、労働力を会社に売り、賃金を得ています。そのかわり、会社の指揮に従う義務が生じます。一方会社は、労働者の人権を尊重しなければなりません。労働者は結婚している限り、夫婦として生活を共にし、それにとらまらず、円滑な夫婦関係を築くこと、その下で子供を慈しみ育てること、年輩いた両親とともに安らかな生活をおくること、地域社会の一員として様々な活動を行うこと。会社は、これらを尊重しなければなりません。しかし実態は、会社の業務命令によって、人権はいとも簡単に軽んじられ、「奴隷」にまで落とし込まれてい

箭内さんを早期に郡山に戻せ！すべての強制配転者を郡山に帰せ！人権尊重に反するJ.Rの合理化施策を許さず闘おう！人間らしく働くために声を上げよう！共に闘いましょう！

騒音に苦情
工事延期！

工事なので「駅構内の作業なら駅側に事前連絡するのが当然なのに、どういうことか説明を求めた」が、工事監督者は頭を下げるだけ。Aさんは、騒音で朝までほとんど眠れませんでした。

沿線住民に挨拶したかどうか定かではないが、少なくとも住宅に接近した場所での深夜作業は慎重にすべきです。駅社員の寝泊りする傍で工事するなら、ホテルの対応も検討すべき。それ

しかしそういう杓子定規で物事を判断するのは間違いです。現実には眠れなかった事実があったのですから、社員に対しては超勤手当等も含め、迷惑をかけた責任を果すべきです。

工事責任者は郡山保線区。外注化し、短期間で安上がりにより工事で済ませる。請負会社はJ R 専門に工事をやっているわけではないので、状況判断が甘い。事前に駅と打ち合わせれば、今回のようなことは防げたはず。住宅付近の工事は日中やるべきだ！

TKK社員労災 死亡事故から二年

そして、昨年の八月八日には一五スポットにて車両出入り口からの落下事故も発生し、同じ関連会社で二年続けて大きな事故が発生しています。JR直営側を見れば傷害、微傷害、ヒヤリハット等は減少しつつあ



支部は、これらの大きな事故の検証はもとより、この間発生した傷害等の検証を支部労働安全委員会を中心に、再発防止に向けた取り組みを強化し、会社側に改善を求めてきました。私たちが安全に日々の作業を行うために、これまで

国交等で指摘してきた箇所が改善されているのか再度点検し、されていなければ改善を求めていく等の取り組みを強めていかなければなりません。また、自分たちの日々の作業で不安なことを何気なく行っていないか、あらためて足元から見直しをしていきましょう。

全問題は、同じ幹総で働いているものとして、また再雇用制度等に見られるように、退職後の職場問題とも直結し見過ごせません。

これまで以上に、協力会社を含めた広い意味での自ら職場の安全を守る視点に立つ運動が今求められています。

私たち国労仙総支部は、二年前の痛ましい死亡事故

仙総所支部
「団結」二七三号より

反核平和の日々

八月五日から九日にかけて、第二二回宮城県反核平和の火リレー（日本青年学生平和友好祭宮城県実行委員会主催）が開催され、県内七百キロを広島の平和公園に灯る火を携え「憲法改悪反対・あらゆる核の廃絶」を訴えてきた。

新庄地区協議会が定期総会

七月三〇日、山形県支部新庄地区協議会は第一六回定期総会を開催した。冒頭挨拶に立った若野議長は「ＪＲ東日本では社員数が六万人を切り、発足当時から見れば三分の二。東日本が最大の収

益を上げてこれたのは人員削減が最大の理由。我々の運動は間違つてはいないが、しかし三万人近い人数が減らされたのは事実。再度合理化の闘いを強化しよう。また年休や労働時間も初めから現

編集部より
機関紙の掲載につき
ましては紙面の関係上、
一部の機関紙の掲載に
とどまりました。ご了承
ください。なお国労
せんだいでは機関紙を
随時紹介していきます。

語り継ぐ

国労は青年部活動一時休止以降、こうした取り組みへの参加も厳しくなっているが、仙総支部ではランナーとして参加し、また宮城県支部ではリレー成功に向けた物資販売が取り組まれるなど、青年共闘運動の継続が図られている。



が経過したが、現状は核廃絶や反戦平和に逆行する改憲が目論まれ、教育基本法の改悪や労働法制の改悪が進められている。

平和な社会、安心して働き続けられる職場を作るために、反核平和の火リレー運動を通し、今後とも出来ることをやり続けていく事が宮城県協議会で確認されている。

「組織戦争に打ち勝つには更にもう一歩進んだ運動が不可欠。有利な状況を活かし流れを掴もう。」と挨拶を述べた。

経過ならびに議題の活動方針案などについては満場一致で採択がされ、二〇〇八年度の活動方針と新役員体制が確立された。

新役員体制は以下の通り。

議 長	若 野 伸 一
副 議 長	能 登 井 康 夫
副 議 長	山 口 恒 好
事 務 局 長	池 田 茂
幹 事	早 坂 喜 久 雄
幹 事	山 村 涉

国労会館建設資金返済業務は1999年度末償還期限以降、(財)国労会館仙台北事業部で取り扱いを行ってきたと云うです。

このたび返済業務が一定の整理を見たこと等から、(財)国労会館仙台事業部で取り扱ってきた業務の残りについて、国労仙台地方本部で引き受けることになりました。

つきましては、今後の国労会館建設資金返済請求については下記に請求をしてください。

住所 記
〒984-0015
仙台市若林区新寺 一丁目
4-3-1
名称 国鉄労働組合
担当係 岡崎 仙台地方本部

連絡先
TEL 02272937460
FAX 02272997435
請求方法
所定の請求書に必要事項
を記載の上「国労会館建設
資金受領之證」とあわせて提
出してください。
以上